

 50th

滋賀県立総合病院
開設50周年記念誌



滋賀県立総合病院



50th

滋賀県立総合病院
開設50周年記念誌

Message

未来へと幸せが続く 滋賀を目指して

滋賀県知事 三日月 大造



滋賀県立総合病院が、開設50周年を迎えるにあたりまして、これまで当院の運営にあたり多大なるご支援、ご協力を賜りました関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

さて、滋賀県では「変わる滋賀 続く幸せ」を基本理念に、将来世代も含めた誰もが新しい豊かさを感じながら、一人ひとりが尊重され、いつまでも幸せを実感できる社会の実現に向けて、様々な分野で取組を進めております。

特に、超高齢社会への突入と人生100年時代と言われる長寿社会の到来、これに伴う疾病構造の変化等に対応して、誰もが自分らしい生活を続けられるよう、安心して医療を受けられる体制の整備が重要となってきております。

県立総合病院は、前身の県立成人病センターとして昭和45年(1970年)12月に開設して以来、がん、心臓疾患、脳血管疾患などの生活習慣病対策に関わる高度・専門医療を担う県立病院として、機能の充実やサービスの向上に取り組み、男女ともに全国トップクラスの健康長寿県の形成に大きく貢献してまいりました。

近年では、平成28年(2016年)に新病棟建設工事を完了して30診療科535床の運用を開始し、平成29年(2017年)には滋賀県地域医療構想を踏まえて第四次滋賀県立病院中期計画を策定しました。安全で質の高い医療の提供、地域医療機関との役割分担と連携の強化、さらには医療を支える人材の育成などの実践を通じて、県民の皆様のご健康をつくり、支えてまいります。

このたび、開設50周年を機に、これまで県立総合病院が果たしてきた役割を振り返るとともに、より一層県民の皆様から愛され信頼される病院として発展してまいりたいと思います。

記念誌の発刊に当たり、関係の皆様から賜りましたご尽力に改めて深く感謝申し上げますとともに、今後一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。







県民の望ましい健康の創生と 経営基盤の確立に向けて

滋賀県病院事業庁長 宮川 正和



滋賀県立総合病院が、前身の県立成人病センターとして昭和45年(1970年)に開設して、本年50年という大きな節目を迎えることができました。

これまで当院の運営に当たりご尽力を賜りました関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

本県の病院事業は、総合病院のほか、小児保健医療センター、精神医療センターの3施設において、全县を視野に高度で専門的な医療の提供に取り組んでまいりました。

また、平成18年4月には、病院経営の自主性や自律性を高め、効果的、効率的な病院改革を進めるため、地方公営企業法を全部適用して、病院事業庁を設置し、「滋賀県立病院中期計画」の策定やバランススコアカードによる目標管理、外部評価制度等を導入し、県民の皆様の望ましい健康の創生と安定した経営基盤の確立に向けて取り組んできたところです。

このうち、総合病院におきましては、県立の急性期医療機関としてがんや血管病、糖尿病をはじめあらゆる疾患に対する高度な医療の提供、他の病院等との機能分担と連携による地域医療提供体制の構築、医療の実践と研究を通じた人材育成や情報発信等の役割を担ってまいりました。

特に、がんの分野では、都道府県がん診療連携拠点病院として指定を受けた平成21年以降、本県のがん診療の質の向上や連携協力体制の構築等を中心となって推進しております。

現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に総力を挙げて取り組んでおりますが、これと併せて、今後とも、医療技術の高度化や疾病構造の変化、医療に対する患者ニーズの多様化など病院事業を取り巻く環境の変化に適切に対応して、県民の皆様や他の医療機関からも信頼される病院を目指すとともに、県政の最重要課題である「健康しが」の実現に向けて貢献してまいります。

病院事業庁といたしましても、安定的、持続的な経営基盤を確立して、公共性と経済性を最大限に発揮した病院事業の運営を図ってまいりますので、今後ともより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

Message

滋賀県立総合病院 開設50周年に寄せて

滋賀県立総合病院 総長・病院長 一山 智



平成の時代から新しい令和の時代を迎えました。

滋賀県立総合病院はこの節目の時期に開設50周年を迎えることができました。このことは、ひとえに県民の皆様、県議会、県医師会、県病院協会をはじめとする関係各位の方々のご理解とご支援の賜物と存じ、深く感謝を申し上げます。また、初代所長の福田正先生をはじめ、日夜労苦を惜しまず当院の発展を支えてこられました諸先輩、職員の皆さま方のご努力にあらためて敬意を表するものであります。

わが国は高度経済成長の時代以降、悪性新生物、心臓疾患、脳血管疾患などのいわゆる成人病が国民の死因の上位を占めるようになりました。本県においてもこのような状況に対応するため、昭和43年に『成人病対策協議会』において県民の健康増進対策が議論され、「総合保健企画体系の充実を図り、保健衛生行政機関の連携強化とともに、技術サブライおよび情報管理の事業を中心とするセンターの存在が必要である」との答申に沿って、昭和45年に『成人病センター』が開設されました。

開設当時は消化器系や婦人科系の集団検診や精密検診を実施するための小規模施設でありましたが、県民の健康増進への益々の期待に応えるための専門的拠点としてとして、その機能充実が図られました。昭和50年には消化器科や循環器科など5診療科で外来診療を、昭和51年からは病床51床により入院診療を開始し、時代とともに規模と診療レベルの向上を順次達成しながら、昭和61年には19診療科466床を有する県内の専門中核医療機関として今日の基礎が完成しました。その後も、医学・医療技術の急速な進歩や医療を取り巻く環境の変化に対応するため、平成11年にがん研究や画像研究など5分野の研究を柱とした研究所を開設しました。平成15年には第一期病院改築計画に沿って外来と20診療科541床の診療体制が整い、さらに第二期病院改築計画に沿って新病棟が完成し、平成28年に現在の30診療科535床

での運用が開始されました。

この間、平成7年には臨床研修医の受け入れ開始、平成13年には救急告示病院に、平成14年には日本病院機能評価機構認定病院に、平成21年には都道府県がん診療連携指定病院にそれぞれ指定され、規模並びに機能において大きく発展してまいりました。平成30年には『滋賀県立成人病センター』から『滋賀県立総合病院』へと名称を改め、心機一転これまでの診療内容の充実を図りながら、多様な疾病に対する総合的な医療の提供を展開していくことになりました。「心のふれあいを大切にして、安全で質の高い医療福祉を創出し提供する」という病院の理念のもと、日々職員一同誠実に職務に専念してまいります。

医療技術の進歩は近年目覚ましいものがあります。進歩と同時にその実用化も急速に進展してまいりました。最近では本庶教授(2018年ノーベル医学生理学賞受賞)によって開発された新規薬剤などがその例です。私たちはそれらの恩恵をいち早く県民の皆様にお届けできるよう努力を続けています。高度ロボット手術機器(ダ・ヴィンチ)、高度放射線治療装置、内視鏡治療装置、心血管カテーテル治療装置、外来化学療法室、さらにはがんゲノム医療診療部など、最新の医療機器設備や体制を整備してまいりました。これまでは治療不可能と考えられていた重症疾患が完治するようになり、同時に治療期間の短縮によって早期退院も達成されるようになりました。これらの高度医療の基盤ともいえる安全で安心な医療の確保、職員の医療安全に対する不断の意識改革は言うまでもありません。

今後とも安全で安心な高度医療の提供することによって、『滋賀県に住んでいて本当に良かった』と思ってもらえるよう、県民の皆様健康増進に努めてまいります。県民の皆様のご理解、ならびに関係の皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

総合病院（成人病センター） 歴代総長・病院長・所長



福田 正 所長
昭和45年12月1日～52年3月31日



武内 俊郎 所長
昭和52年4月1日～54年3月31日



品矢 静雄 所長（県厚生部長）
昭和54年4月1日～55年3月31日



熊谷 直家 所長
昭和55年4月1日～63年1月31日



川村 仁弘 所長（県厚生部長）
昭和63年2月1日～63年7月14日



中山 信男 総長（県厚生部長）
昭和63年7月15日～平成元年3月31日



芹生 陽一 総長
平成元年4月1日～7年1月31日



杉山 武敏 総長
平成7年2月1日～12年3月31日



福井 有公 総長
平成12年4月1日～16年3月31日



日合 弘 総長
平成16年4月1日～18年3月31日



河野 幸裕 病院長
平成18年4月1日～21年3月31日



笹田 昌孝 総長
平成21年4月1日～26年12月31日



真鍋 俊明 総長
平成27年1月1日～29年3月31日



宮地 良樹 総長
平成29年4月1日～30年3月31日



一山 智 総長
平成30年4月1日～

目次

ごあいさつ

未来へと幸せが続く滋賀を目指して 滋賀県知事 三日月 大造	3
県民の望ましい健康の創生と経営基盤の確立に向けて 滋賀県病院事業庁長 宮川 正和	6
滋賀県立総合病院開設50周年に寄せて 総合病院 総長・病院長 一山 智	7
歴代総長・病院長・所長	8
命を守り続けた50年	10
病院基本方針	14

各部門のあゆみと展望

血液・腫瘍内科	16
糖尿病・内分泌内科	17
老年内科	18
免疫内科	19
脳神経内科	20
循環器内科	21
腎臓内科	22
消化器内科	23
呼吸器内科	24
精神科	25
外科	26
乳腺外科	27
整形外科	28
形成外科	29
脳神経外科	30
呼吸器外科	31
心臓血管外科	32
泌尿器科	33
婦人科	34
眼科	35
耳鼻いんこう科	36
皮膚科	37
麻酔科	38
放射線診断科	39
放射線治療科・放射線治療部	40
緩和ケア科	42
歯科口腔外科	43
病理診断科・病理部	44
聴覚・コミュニケーション医療センター	45
リハビリテーション科	46

遺伝子診療センター	47
救急部	48
手術部	49
化学療法部	50
内視鏡部	51
検診指導部	52
臨床検査部	53
放射線部	54
臨床工学部	55
薬剤部	56
栄養指導部	57
看護部	58
緩和ケアセンター	60
がん相談支援センター	62
感染管理室	63
医療安全管理室/財務企画室	64
教育研修センター	65
医療情報室/総務課	66
医事課/地域医療連携室	67
研究所	68

未来に向けて

滋賀県立総合病院の将来	70
開設50周年記念職員座談会	72

ご寄稿綴り ～50周年に想う～

井村 壽男/川邊 安代	80
許 永勝/鈴木 孝世	81
田中 一史/田中 正樹	82
多林 久治/堀 泰祐	83
宮地 良樹/宮下 孝子/矢木 清美	84

資料編

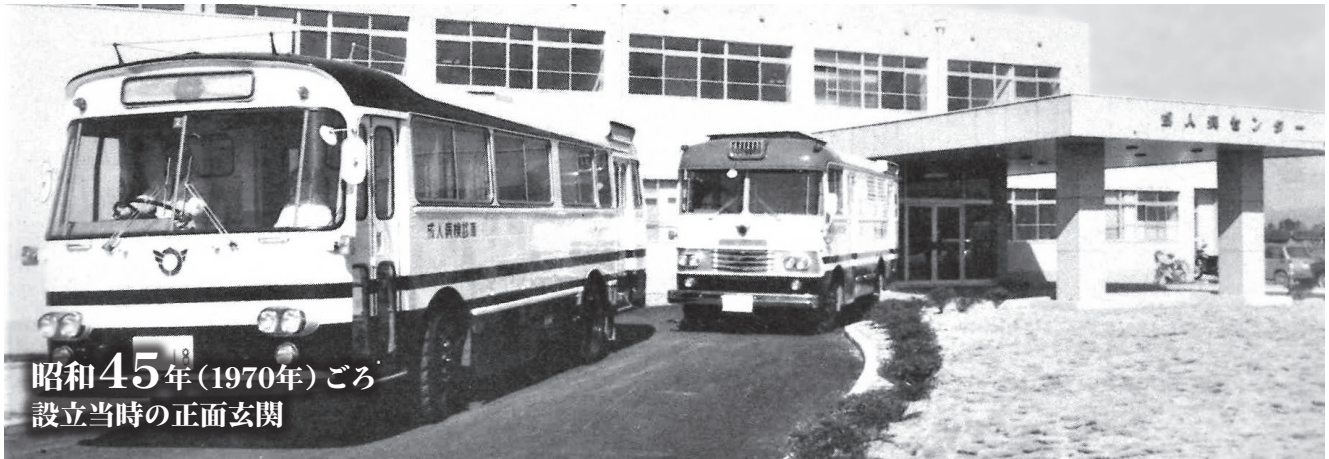
50年のあゆみ(沿革)	86
入院患者数の推移/外来患者数の推移	96
会計規模の推移/職員数の推移	97
編集後記	98



命を守り続けた 50年



安全で安心な医療を目指し、
職員の安全に対する意識改革と行動変容を促した50年。
これからも『滋賀県に住んでいて本当に良かった』と
思ってもらえるよう、皆様の健康増進に努めてまいります。



昭和45年(1970年)ごろ
設立当時の正面玄関



昭和62年(1987年)ごろ
検診車(さちかぜ2号となでしこ3号)



昭和51年(1976年)ごろ
旧東館



昭和61年(1986年)ごろ
旧東館と西館



昭和60年(1985年)ごろ



昭和51年(1976年)ごろ
旧東館



昭和61年(1986年)ごろ
旧東館と西館

平成14年(2002年)ごろ



平成22年(2010年)ごろ



平成30年(2018年)ごろ



Policy

病院基本方針

平成24年(2012年)3月



理念

心のふれあいを大切にして
安全で質の高い医療福祉を創生し提供する。

指針

1. 県民とともに健康の回復・保持・増進に寄与する。
2. 高度医療および全県型医療を展開する。
3. 将来の医療福祉を追求し実践へと発展させる。